



# 明治大学、悲願の初優勝！

## Match Review Result & Report

Reported by 藤基泰寛(読売新聞社運動部)

2016年8月14日(日) 18:00キックオフ  
会場/ヤンマースタジアム長居 天候/雨 入場者数/4440人

明治大学	1	1-0	0	順天堂大学
15分 道淵諒平(富田光・河面旺成)		得点 (アシスト)		



明治大学が悲願の総理大臣杯初優勝を果たした。この4年間で3度目となる決勝。2013年は流通経済大学、そして昨年は関西学院大学の前に涙をのんできたが、ついにその壁を破った。栗田大輔監督は「タフさが求められる大会だったが、選手たちは毎試合、チームのために戦い抜いてくれた」と、中1日で5試合をこなす厳しい日程を乗り越えたイレブンに賛辞を送った。試合前のミーティング。選手たちは「いつも通りのプレーをしよう」と声をかけ合ったという。2度の敗戦から、平常心でピッチに立つことの重要性を学んでいた。だが試合開始直後は「慎重になりすぎた」とMF8、道淵諒平(4年)。ボールをつなぐ順天堂大学の攻撃に構えてしまい、なかなかリズムをつかめなかった。それでもゴール前では高い集中力を発揮。4試合連続ゴール中だった順天堂大学のFW28、旗手怜央(1年)にも、DF4、小出悠太(4年)らが厳しく体を寄せて自由を与えなかった。そして15分、敵陣でボールを奪うと、素早いパス回しで相手DFを翻弄。最後は中央で受けた道淵がゴールに蹴り込み、先制点を奪った。リードして余裕が生まれた明治大学は出足も良くなり、前戦にくさびを入れようとする順天堂大学の縦パスをボランチのMF6、柴戸海(3年)や17、小野雅史(2年)らが次々とカットしていく。「勇気を持って前を向くことができなかった」と順天堂大学の堀池巧監督を残念がらせるほどの堅守を見せ、危なげなく逃げ切った。1年生からレギュラーを張ってきた小出は充実感に満ちあふれた顔で「準優勝と優勝では、(見える景色が)こんなにも違うんですね」と語った。

